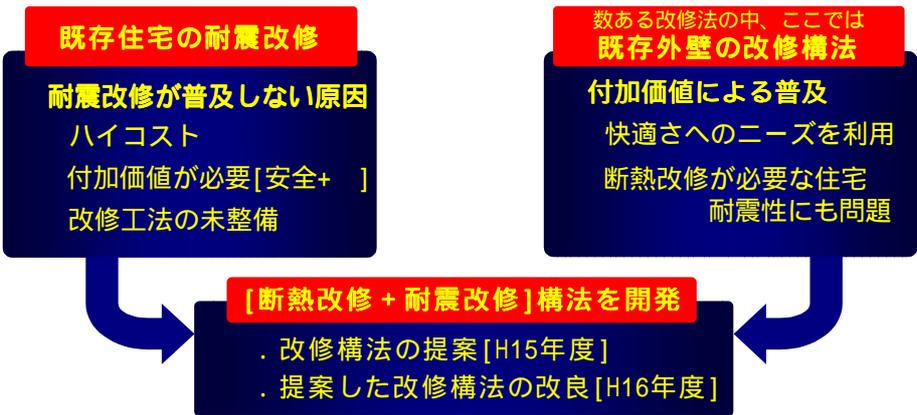


断熱改修時における外壁の耐震化構法に関する研究

共同研究機関名 NPO 法人住宅テクニカルセンター、室蘭工業大学
担 当 部 科 生産技術部生産システム科、環境科学部居住環境科

研究の目的

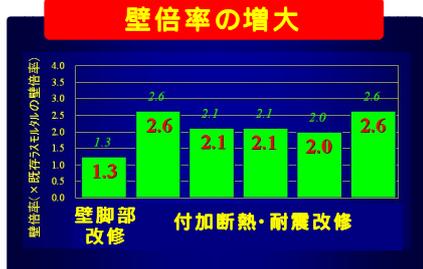
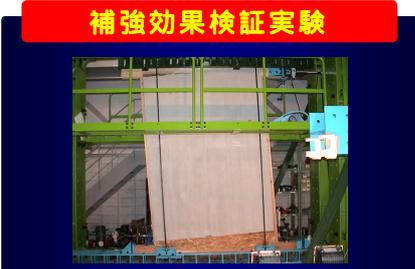
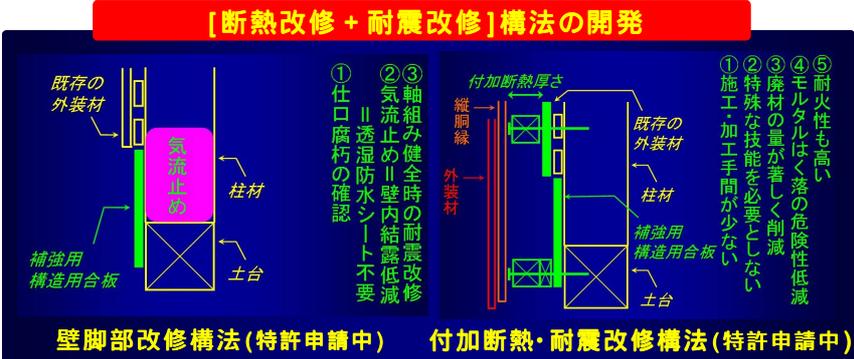
本研究では、既存木造住宅の断熱性能と耐震性能の向上を同時に実現できる改修構法の開発・提案を試みます。これにより、既存木造住宅の断熱・耐震改修を促進し、良質な住宅ストックの形成に貢献して行きます。



研究概要

土台と柱接合部の健全度の確認と補強、及び壁脚部における気流止め施工を目的とした改修構法を提案しました。また、既存のラスモルタル仕上材を撤去せず、かつ、同仕上材の残存面内強度を壁耐力に寄与させる付加断熱・耐震改修構法を提案しました。

提案した改修構法の補強効果を実験にて検証した結果、壁倍率が2倍以上に向上することが確認できました。



活用方法・成果

本改修構法は、特殊な断面の部材・材料や技術を必要としないので、一般工務店での施工が可能です。また、外貼り付加断熱構法を発展させた構法ですので、種々の必要付加断熱厚さに対応できます。

来年度は、本改修構法の補強効果を高める方法や、外装材を施工することによる補強効果等について検討する予定です。

